

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2丁目30番2号		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町村受理日	平成23年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100251&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号クレスト西205
訪問調査日	平成23年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりのある環境を作ります」というホームの理念を掲げ、その人がこれまで営んできた生活を大切にしたいという気持ちを持ち、自宅に暮らしているのと変わらない環境を作れるよう心がけています。個々の関わりの中でも職員側のペースを押しつけずに本人の意向を大切に、「自分が受けたいと思うケア」を常に念頭においています。また、利用者が「自分らしく穏やかに暮らせる」為には、日々の生活を支える職員の認知症への理解が大切だと考え、法人研修、県主催の認知症勉強会やグループホーム連絡会主催の研修等への積極的な参加を促し、認知症の人を理解した職員育成に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人との連携が緊密に取られ、出かける時には、法人の車や福祉用具等を使用して全員参加で外出を楽しんでいる。また、法人は、職員の質向上の為に積極的に多くの研修を開催し、管理者は全職員が研修に参加できるよう学習環境を整えている。結果として職員と利用者との会話が和やかな雰囲気になれ笑顔が見られる等、研修の成果がケアに活かされている。地域連携として、集会場で認知症学習会の開催や清掃活動への参加、通り会の街灯設置の支援等、積極的に関わっている。また、管理者は、医療連携を重視し、訪問診療や薬学的管理指導を定期的に実施し、利用者が安心して療養できるよう支援している。法人は終末期医療の方針に掲げており、管理者も環境を整え、支援体制を準備中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成23年2月26日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でケア理念を作成し、事業所内の見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが意識し、理念に則したケアできるように努めている。	開設当初時に、全職員で作り上げた地域密着型としての理念を掲示している。月1回のミーティングの中で職員間で、理念を確認している。一人ひとりの個性を大事する観点から、食事や入浴時間等、その日の利用者のペースに合わせて対応している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、地域との交流が行える体制を築きつつあり、近隣の作業所からパンの訪問販売等も受け入れている。また、近隣スーパー等への買い物を職員と一緒に出かけ、地域の方と挨拶をしたりしている。	地域の自治会へ加入し、通里会のカラオケ大会に利用者と職員が参加している。また、地域の方が事業所の交流室で三味線を弾いて歌を歌ったり、中庭では、ていびちパーティーも開催されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや等も行っていて、地域へは広報誌を配布し認知症への理解を広めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し、現在取り組んでいる内容や、今後の行事予定等を報告し、意見を頂くようにしている。	予定していた運営推進会議が2度中止となったが、それ以外は2か月に1回開催されている。会議は、利用者・家族・市担当職員・地域住民等が参加している。参加者から情報を得て、通里会のミニディサービスに利用者と職員が参加する等、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電子メールを利用しての情報のやり取りを行ったり、運営推進会議による状況報告等を行っている。	運営推進会議の中で市担当職員へ管理者は、行事計画や活動内容、外部評価結果を報告している。電子メールを利用して市担当職員より、法改正や加算等について情報を得る等、協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子があれば、その都度声かけ一緒に近隣の公園まで散歩したり、ドライブ等に出かけ気分転換が図れるように配慮し、玄関のカギは施錠していないため、利用者は出たいときには出られるようにしている。	身体拘束は行わないという方針の下、日中は玄関の鍵を開放している。外出しようとする利用者には、職員と一緒に公園まで散歩に出掛けたり、利用者の好みの珈琲を勧め、香りを楽しんでいただく等、気分転換ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修の中で虐待防止について学び、日頃の業務においても虐待に繋がる行為がないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修の中で権利擁護について学び、制度を理解するよう取り組んでいる。成年後見制度を利用している方がいるため、職員は常に意識を持ち勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明しており、特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や行事へ参加して頂いたご家族より、意見・要望を気軽に話して頂けるよう、常日頃より関係作りに積極的に取り組んでいる。また、意見・要望に関しては、ミーティングを通して全スタッフに周知し、改善に向けた話し合いを行っている。	家族会の開催時に、家族より病院受診時の同行や送迎依頼、生年祝いを行ってほしい、との要望があり、ミーティングで話し合いが行われ実現された事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、適宜、職員の意見を聴くよう心がけ、運営に反映できるよう努めている。また、必要に応じて、個別の面談も取り入れている。	月1回のスタッフミーティングについて、職員から開催時間帯の見直しの意見や提案があり、全職員が参加し易いよう時間帯の変更や調整等、工夫され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員の正社員への登用や資格者への手当て、資格試験合格時の受講料支払い制度や、業績がよければ全職員へのボーナス支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修は、出来るだけ多くの職員が参加できるように、同じ内容を2回行っている。また、外部研修も平等に全職員が参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会が開催する研修会等へ職員が交換で参加するようにし、その際に他の事業所の方と交流が持てるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時には、必ず家族と面談し、困っていることや不安な事等を確認し、事業所として出来る事、出来ないことを話し合い、信頼関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いを確認し、今必要なサービスとは何かを他のサービスも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協力しながら自分らしい生活で送れるような場面づくりや声かけを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時や家族会開催時に利用者の日々の状況を伝え、情報を共有するようにしている。事業所の行事への家族の参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みの物を持って来ていただくよう本人、家族へお願いしている。入居者との会話の中に出てくる馴染みの事柄に着目し、馴染みの場所に行くなど、ドライブや行事に反映させている。	住み慣れた地域の知人や近隣の方が事業所へ利用者を訪ねたり、事業所の仲間とドライブがてら地域へ出掛けたりしている。また、これまでの行きつけの美容室へ出掛け、店主と会話を楽しむ等、利用者の馴染みの関係の継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごせる時間があり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、その後の支援体制について関係者と共に話し合い、退所後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中に出てくる本人の思いを大切に、外出支援や活動のサポートをするなど、本人の意向に沿った支援を行うよう努めている。	意思表示のできる利用者は、直接本人から意向を聴きとり対応している。例えば、めがね修理を希望する利用者へは、希望する専門店へ職員と一緒に出掛けている。会話が困難な利用者へは、返事し易い方法で問いかけたり、表情やしぐさ等から判断しながらケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の個人ファイルに記載された生活歴に目を通したり、会話の中で昔の話を聞いて把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースカンファレンスを行い、一人ひとりの状態やペースの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやケアプラン更新時の担当者会議等で、職員、本人、家族、関係者の意見を反映させて介護計画を把握している。	家族や医師・薬剤師・担当職員等が参加して介護計画を作成し、食事の摂取量や体重の管理を行っている。3か月に1回モニタリングを行い利用者の意向にそって見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、その都度記載するように努め、申し送りにて情報の共有をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に同行出来ない家族の代行や、散歩や嗜好品の買い物への付き添い、散歩同行など突発的に発生した本人や家族のニーズにも出来るだけ対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、民生員や市役所職員や地域住民から情報を得て、出来るだけ地域資源を活用するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は往診を中心に行っているが、本人、家族の意向を大切に、これまでのかかりつけ医を継続して利用している方もいる。往診以外の受診時にはバイタルチェック表等を活用して連携に努めている。	月2回の訪問診療や受診時に情報提供、付き添いの支援も行っている。また、専門医への受診時は、主治医の紹介状も添える等、医療的な連携が密に取られている。さらに薬剤師による薬学的管理指導も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際には必ず看護師が付き添うようにし、介護職は看護師に日々の状態の相談、報告をし助言も受けている。訪問看護師に対しても、その都度の状態、状況の報告を行い、適切な受診へとつながるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者は今のところいないが、協力医療機関には利用者の情報提供を行っており、また主治医と連携を取りながら、主治医、協力医療機関の連携もスムーズに取れるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期のあり方について家族の意向を確認しており、重度化した際の方針に関しても話し合っている。現在、重度化している方はいないが、状態に応じてその都度、方向性の話し合いを行っていく意向である。	法人は、重度化や終末期に対応していく方針である。管理者も看護師の採用、職員の勉強会やマニュアル作成等、環境を整えて家族や利用者の意向に応えられるよう準備段階である。	法人の協力を得ながら、事業所ができるケアについて職員間で話し合い、関係者と連携を図り、支援に向けた取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修にて、急変時の対応について学んでいる。今後も年に1度は救急法の勉強会を開催していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は2月に消防署の協力のもと総合訓練を実施しており、今後は自主訓練を実施を計画し早急に実施したい。地域の方にも参加頂き緊急時の避難体制を確保したい。	消防署との連携で避難訓練、自主訓練を行っている。夜間を想定した訓練、地域との連携については、今後の課題としている。	夜間を想定した避難訓練の実施、さらに運営推進会議等で協力を呼びかけ、地域住民の参加を得た避難訓練の実施を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、利用者への言葉かけには常に注意を払い、プライバシーには十分配慮し自己決定しやすい言葉かけを行っている。	事業所は、接遇研修を実施しており、利用者を誘導する際の言葉かけや日常会話において、利用者の希望を大切にするとともに、自己決定ができるよう気配りしている。また、プライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思確認を行ったり、選択肢を提示するなど、自己決定を促し支援を行うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを大切に、個々の希望に沿った支援をするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がこれまで培ってきたスタイルを大事にし、美容室でのヘヤーセット、パーマ、白髪染めを行ったり、化粧品やマニキュアの購入に付き添ったり、個々の要望に沿った支援が出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じた準備や片づけを職員と一緒にっており、おやつ作りや料理の内容によっては、利用者の指導のもと調理を行う場面も見られる。	昼食は法人内で調理し、利用者と職員が取りに行っている。朝夕の食事準備は、食器拭きや盛り付け、配下膳、野菜の下ごしらえ、味付け等に利用者の力が活かされている。また、食卓では職員と利用者が談笑しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は栄養士が作成した食事の提供を行っている。朝、夕は職員が立てたメニューでの食事提供だが、好みに応じて個別での対応も行ったり、希望に応じてメニュー変更も行っている。食事量や水分量はその都度チェックし、把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、出来ない方に対しては介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、トイレでの排泄を促している。	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。意思表示のない利用者へは、しぐさや様子を見ながらさりげなく誘導している。また、羞恥心への配慮、不安感を軽減する為の対応も工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者は多いため、水分補給の促しや食事内容、食事材料に関しても検討しながら改善出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴するようにしており、時間帯も自由となっている。介助を要する方にも希望を確認した上での入浴を行っている。	利用者の希望や時間に合わせてシャワー浴や浴槽での対応を行っている。ほとんどの利用者が浴槽に入浴剤を入れ、香りを楽しんでいる。また、脱衣所は、暖房器具が設置され、心地よく安心して入浴ができる環境も整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望で過ごしていただいているが、生活リズムが崩れそうな場合は、理由を説明して日中の活動への促しを行ったり、午睡を減らしていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルに添付し、職員は目を通している。また、薬剤師からの薬学的管理指導計画書もファイルしており、職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビデオ観賞や散歩、買い物、家事、ドライブ等、利用者の要望や生活歴に応じて、気分転換や楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や希望時にはドライブも行ったり、買い物の同行など常に外出できるように努めている。事業所の外出行事には家族の参加も促し協力頂いている。	利用者の住み慣れた地域へ出かけ、当時の様子を話題にドライブを楽しんでいる。クリスマスシーズンには、夜間のイルミネーション見学に出かけている。日常的には、近所のスーパーやコンビニで日用品の買い物や近隣へ散歩を行う等、個別支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には個人で所持して頂き使用できるようにしている。自己管理が難しい方は事業所管理し、希望があれば使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、その都度電話をかけたり、手紙等の郵便物を出す支援をしている。また、正月の年賀状作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個々の好みに合わせ、家具の配置等を工夫したり、共有の空間は利用者一人ひとりの意見を聞いて改善するように努めている。	共用空間は、中庭を囲み適度な明るさで風通しも良い。トイレは洗浄用のシャワーがあり、浴室には暖房が設置されている。中央に位置した台所は、食欲をそそる匂いに利用者が集う姿も見られた。居間のソファーに腰掛け家族と談笑したり、中庭を見ながら思い思いに過ごす利用者の姿も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階の交流室には、ソファーを設置しテレビを見たり、気のある方とは話をしたり等が行えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みのものや馴染みのあるものを持って来ていただくよう入居時に本人や家族に促し持って来ていただいている。	居室からは通りや庭が見え、窓も広くゆったりとしている。家族の写真や三味線、冷蔵庫、ラジオ、テレビ等、馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる様工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的空間を保っているため、表示等はないが、馴染みの空間を作る事により、入居者がそれぞれの場所を認識して自立した生活が送れるよう支援している。		